



歓迎あいさつ

豊田市長

太田 稔彦



皆さんおはようございます。まず、国連経済社会局ニキル・セス様、環境副大臣北村茂男様、愛知県副知事森岡仙太様をはじめ、多くの皆様にこの豊田市にお集まりいただきました。心から、豊田市民を代表して歓迎します。ありがとうございます。

この豊田市は、人口が42万、面積が918平方キロメートルあります。人口は愛知県で名古屋市について2番目です。面積は、愛知県の約20%を占めています。愛知県下1番の広さです。

豊田市について、3点その特徴をご紹介します。1点目は、これは皆様もご承知の通り、豊田市はクルマのまちです。トヨタ自動車の本社、豊田自動車の国内の主要工場の大半はこの豊田市内にあります。関連の中小企業も数多くあります。自動車に関する様々な産業もあります。そうしたクルマのまちです。

このまちで一体どのようなもの作りが進んでいるかということについて、実は昨日、今日にかけて、ここから車で5分くらいのところにあるスカイホール豊田という名称の施設でビジネスフェアというイベントを開催しています。

主に豊田市内ですが、市外も県外も含めて、120の企業や団体が出展をしている産業の見本市です。このシンポジウム会場から、まだ市販していない段階の燃料電池の最新のバスがシャトルバスとして活用されています。もしお時間のご都合がつけば、ぜひそちらのビジネスフェアもご覧いただきたいと思います。豊田市がどのようなクルマのまちかということについても、そのビジネスフェアの中でご覧いただければと思います。

それともうひとつ。今日の夜と明日の夜、この向かいにあるビルにデジタル映像を流すイベントをさせていただきます。いろいろなデジタル映像が展開していくイベントなのですが、その電源の一部を、昨年末にトヨタ自動車が発売したMIRAIという名前の燃料電池自動車を使って、映像を投影するという取り組みも行います。

今夜、明日の夜、この会場の外に出る機会もあるので、そちらもご覧いただくと、クルマのまちならではの取り組みとしてご覧いただければと思います。

2点目は、自然豊かなまち豊田です。豊田市はこれほど産業活動が活発でありながら、この会場からわず



か10分ほど歩いたところに流れている川で鮎が釣れます。もちろん食べられる鮎です。季節になると、多くの釣り人がその川にやってきて、鮎を釣って、持ち帰ります。

あるいは、ここから6キロほど離れたところに、ラムサール条約の登録湿地があります。規模は小さいですが、希少種の植物が群生している湿地です。季節的には、今は花が咲いていないので、見どころはあまりないのですが、また花咲き誇る時にはぜひご覧いただきたいと思います。

加えて、豊田市の70%は森林です。ですから、ここから車でわずか20～30分走れば、そこからは山また山の景色が続く。そういう自然豊かなまちでもあります。

3点目は、歴史文化です。この会場から約10キロほど離れたところに、松平という地名のところがあります。豊田市松平町といいます。日本の歴史の中で、1603年から265年間、安定的に政権が続いた時代がありました。江戸時代、あるいは徳川時代と言っています。安定的に政権運営を行った徳川家は、15代に渡って江戸時代を築きあげました。

徳川家の始祖の地は、実はこの豊田市の松平町です。そうした歴史、伝統にも恵まれたこの豊田市です。今回、今日明日のシンポジウムのテーマは、「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム ～人と環境と技術の融合～」です。

この豊田市の取り組み、クルマのまちの特性を生かした取り組みは、まさに人と環境と技術の融合の取り組みであると思っています。

一方で、豊かな自然と歴史文化を生かした取り組みは、むしろ技術ではなく、人と自然、人と歴史文化をいかに調和させるか、いかに調和させたまちづくりを進めるか。そのときに過去の様々な先人たちの知恵や経験、工夫をいかにこれからのまちづくりに活かすかということがテーマになっています。

クルマのまちの特徴を生かした、先端技術を使った持続可能なまちの取り組みと、自然と歴史文化を生かした持続可能なまちの取り組み。この2つは相反するとは思っていません。

これらをいかに両立させて、市民の皆様の様々な選択を可能にするか。そうしたまちづくりを豊田市は進めていますし、それが豊田市にとっての持続可能なまちの方向性だと思っています。

今回お集まりいただいた都市は、それぞれの事情をお抱えかと思います。しかし、いずれの都市も持続可能であり続けたい。その願い1点において、気持ちは同じだと思います。ぜひこの2日間、それぞれの都市の抱える事情、目指す方向性等について、様々な意見交換がなされ、この2日間が私たちにとって実り多い機会になることを心から祈念しています。

どうか充実した2日間になるよう、よろしく願い申し上げます。本日の会議へのご参加、本当にありがとうございます。



## 歓迎あいさつ

国連経済社会問題担当事務次長

ウ・ホンポ



国際連合を代表して、「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム～人と環境と技術の融合～」に参加された皆様を歓迎いたします。この重要なイベント開催に寛大な支援を賜った太田市長はじめ担当チームの皆様に深く感謝します。

豊田市には、世界と共有すべき貴重な経験があります。革新的な技術ソリューション、持続可能な交通システム、民間部門との連携を通じた豊田市の都市化の推進には目を見張るものがあります。学んだ教訓や経験の交換が、参加者の皆様に役立つと確信しております。経済社会局の傘下で、多くの国の持続可能な地域的慣行の支援に粘り強く取り組んでいる、国連地域開発センター（UNCRD）にも謝意を表します。彼らは、本シンポジウムの準備に当たり貴重な支援と助言を提供してくれました。

世界では、史上類のないペースで都市化が進展する傾向が見られます。2050年には世界の都市人口が25億人増加し、このうち90%近くがアジア・アフリカで生じると考えられます。持続不可能な消費と生産、環境劣化、社会サービスへの負担、多くの人を悩ませる経済的機会の欠如など、課題は数知れません。

しかし都市は、経済成長、イノベーション、教育、文化の未来に向けた私たちの希望の中心でもあります。世界の都市は、グローバルな国内総生産の80%を生み出しています。2015年以降の持続可能な未来、およびグローバルな持続可能な開発目標を達成するには、こうした都市の可能性を最大限に活用することが不可欠です。

国連持続可能な開発会議のメンバー国は、リオ+20で都市および大都市圏が持続可能な都市計画政策・都市設計を実施することの重要性を強調しました。従って、実施の側面に焦点を絞る必要があります。その意



味で、スマート技術とレジリエンスに関する人間中心型戦略、都市環境の持続可能性、持続可能な都市の未来への投資をめぐる実際的な経験に重点を置いた本シンポジウムは、非常にタイムリーなものです。

私たちは互いから学び、耳を傾ける必要があります。どのような対策が効果的と判明したか。どんな教訓が得られたか。本シンポジウムの目的は経験を共有しこれらの疑問に答えることです。今日私たちがとる行動が、未来の世代に違いをもたらします。望む未来を実現するため、力を合わせねばなりません。このシンポジウムが実り多いものとなるよう願っています。ありがとうございました。





環境副大臣

北村 茂男



ただ今、御紹介いただきました、環境副大臣の北村でございます。

本日は、国連・豊田市共催による「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム～人と環境と技術の融合～」にお招きいただき、また、このようなごあいさつの機会を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、開催にご尽力された太田豊田市長をはじめ、関係者の皆様、また、今回参加された皆様方に敬意と感謝を申し上げます。

さて、本会議のテーマは、「持続可能な都市」であります。

国連の統計によりますと、全世界で都市部への人口集中が進行しているとのことですが、特にアジアの都市部への人口集中は、先進国を上回る速度で進行しており、2050年には65%強まで都市化率が進むと推計されております。

さらに、アジアは今後も高い経済成長が期待されています。

高い経済成長が続きますと、大気汚染、廃棄物処理等の従来型環境問題が顕在化するとともに、都市の諸活動が温室効果ガスの主要発生源ともなり得ます。

このようなことから、「持続可能な都市」を考える上で、「環境」への対応が重要な鍵になると言えます。

環境省の国際的な取組を少し紹介させていただきますと、東アジア地域における「環境的に持続可能な都市」実現を目指した取組を、ASEAN諸国と連携して進めております。

具体的には、ASEAN地域内の自治体が自ら企画・提案したアイデアを達成するための「モデル都市プログラム」の実施を支援するとともに、2010年から毎年「環境的に持続可能な都市ハイレベルセミナー」を開催しております。今年は2月にマレーシアにおいて開催することとしております。

また、アジア太平洋地域におけるリデュース、リユース、リサイクル、いわゆる3Rを推進するため、国際連合地域開発センター、ホスト国とともに「アジア太平洋3R推進フォーラム」を開催しております。今年はモルディブで第6回会合を開催する予定です。

我が国はかつて、高度成長を遂げる過程で深刻な公害をはじめとする環境問題に苦しみました。そして、



過去の都市環境問題克服の過程を通じて、水・大気環境保全、省エネルギー、また、廃棄物の減量やリサイクルなどの3Rをはじめとする分野で、環境負荷を少なくする技術、知見を蓄積してまいりました。これらは、アジアをはじめとする各国の都市の皆様にとって、必ず役に立つものであると確信しております。

例えば、ここ豊田市におかれましても、2009年1月に低炭素社会の実現に向けて人と環境技術が融合する「ハイブリッド・シティ」をキーワードとして、「交通」、「産業」、「森林」、「民生」、「都心」の5分野で重点的な取組を実施されております。また、国際的な枠組みの下で進められている、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の処理にも積極的にご協力いただいております、アジアを代表するモデル都市の一つであると言えます。

我が国の産業技術の集積地である愛知県そして豊田市で開催されるこの会議のプログラムを通じて、“人と環境と技術の融合”に関する知見の共有と理解が進むとともに、我が国の最新の環境技術が国際的に貢献できることを期待しています。

その技術の普及を支援する制度の一つが「二国間クレジット制度」、いわゆるJCMです。JCMとは、日本との間で覚書を交わした国において、優れた低炭素技術の普及や対策を実施し、その結果実現した温室効果ガスの排出量の削減を日本の削減目標の達成に活用する仕組みです。これまで、12か国との間で、JCMの署名をいたしました。

案件の形成にあたっては、単に技術の導入可能性調査にとどまらず、日本の都市が持つ経験や知見をアジアの各都市に活かしていただくため、都市間の連携・協力を重視しています。環境省としては、引き続きこのような都市間の協力が拡大し、持続可能な都市づくりに貢献させていただくべく、支援を継続していく所存です。

最後になりますが、豊田市におかれては、このシンポジウムを中心として、「とよた世界環境ウィーク」を設け、様々な取組を展開されておられます。

このシンポジウムが大きな契機となり、豊田市における、産官学が連携した低炭素社会への先進的な取組がさらに進展し、また、国際的な持続可能な都市の実現に向けた取組が加速されることを期待して、私のごあいさつとさせていただきます。

御清聴、ありがとうございました。



愛知県知事

大村 秀章

愛知県副知事

代読 森岡 仙太



国連・豊田市共催による「持続可能な都市に関するハイレベルシンポジウム～人と環境と技術の融合～」の開催にあたり、開催県を代表して一言ごあいさつを申し上げます。

国内外からお集まりいただきました関係の皆様、ようこそ愛知へお越しいただきました。740万県民を代表し、心から歓迎申し上げます。

この国際会議は、国連が持続可能な都市のあり方について議論、意見交換することを目的に、世界の各都市で開催されておりますが、日本で開催されるのは今回が初めてとのことであります。

国連の皆様や豊田市をはじめ関係の皆様のご尽力により、本日の開催を迎えることができたものと存じます。改めて、敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、愛知県は、日本の中心に位置し、日本一の産業県であります。本県の基幹産業である自動車産業は、全国の自動車製造品出荷額等の41%を占め、日本の製造業を牽引するとともに、自動車生産の世界的な一大拠点を形成しております。

そして先月、世界に先駆けて販売が開始された、環境に配慮した究極のエコカーである燃料電池自動車（FCV）は、この愛知で誕生しており、愛知県ではFCVに必要な水素ステーションの整備促進など、その普及促進に全力で取り組んでいるところであります。

また、愛知県は、環境面でもトップランナーを目指しております。本県では、これまで、2005年の「自然の叡智」をメインテーマとした「愛知万博」、2010年の「COP10」、そして昨年「ESD ユネスコ世界会議」の開催などを通じ、持続可能な社会づくりに貢献する愛知を世界に強くアピールしており、県民の環境への意識は大変高いものがあります。

そして、ここ豊田市におきましても、トヨタ自動車を中心として、幅広い自動車関連産業の集積が高い産業都市であるとともに、平成21年に「環境モデル都市」に、平成22年には「次世代エネルギー・社会シス



テム実証地域」に選定されるなど、全国に先駆けて、低炭素社会の実現に向けた先進的な取組にチャレンジされております。

こうした取組が進む中で、この地において、世界中の政府、国際機関、自治体などの代表者が、環境技術を活用した持続可能な都市づくりの推進のため、環境、防災などの諸課題について議論されることは、誠に意義深いものと考えております。

本日ご出席の皆様のご積極的なご議論により、本会議が実り多いものとなりますよう、大いにご期待申し上げます。

最後になりますが、国連や豊田市をはじめ、本日ご出席の皆様のご発展と、本会議の成功を心から祈念いたしまして、開催県代表のあいさつといたします。

